

創立十五周年記念

囲碁川柳

栄区囲碁普及会

囲碁川柳冊子発行にあたり

創立十五周年記念にあたり、会員の方から「会員及び受講生等の関係者の皆様から川柳の投稿を願ひ優秀作品を表彰する」とのご提案をいただき、記念事業の一つとして取り上げさせていただきました。

川柳という異なる分野に加え、囲碁との係わりを詠むという狭い題材でしたので、皆様からどの程度の協力を得られ投稿していただけるかを懸念いたしました。しかし推進していただいた皆さんの努力もあり、多くの句が寄せられました。

この場を借り、謝意を表したいと思います。

私どもの囲碁の世界は「楽しむ」が原点にあるといえます。教える楽しみ、学ぶ楽しみ、いろいろな人生を送ってきた人たちとの新たな交わり、会話、そして囲碁との出会いが勝ち負けを別にして私たちの人生に潤いを与えていることは間違ひありません。お寄せいただいた川柳を見ますと、囲碁教室のこと、碁敵との様子、子供との対局、碁と夫婦、負けても勝っても酒、パソコン対局、ボケ防止と謙遜する句など多岐にわたり生活のなかにおいて囲碁が大きく占めていることがわかります。

これらの句は、このまま埋もれさせるには惜しいとの声を受け、冊子に取りまとめ関係者の方々に配布し、見ていただくことになりました。折に触れ冊子を開き楽しんでいただけたらと思います。

発行にあたりご協力をいただいた方々に感謝を込めて

栄区囲碁普及会

会長

牧野 博

優秀作品の選考について

投稿作品の総数は二百八十三句に及び、この中から秀逸作品十句、佳作作品二十句を選考するに当っては特に専門家に依頼することをせず、囲碁に係わる多くの人の感性に委ねることとし、各教室のチーフ及び正副会長会議構成員の計二十名に選考委員をお願いすること、優秀作品の最終選考に当っては、別途小委員会を設けて調整をすること、について幹事会の了承を得、各選考委員に作者名を伏せてそれぞれ秀逸作品十句、佳作作品二十句の選考を依頼したところ、選考された作品数は百九十句に達した。

この句に対し、秀逸句を三点、佳作句を一点として集計し、得点の高い順に秀逸作品十句、佳作作品二十句を選考した。さらに、小委員会推薦として、秀逸作品二句、佳作作品二句を加えること、小学生の作品二句をジュニア賞として表彰すること、また、小委員会委員の作品は表彰対象外とすること、複数の句が選考されている場合でも被表彰者は一名とすることなどを幹事会に提案し賛同を得た。これらを勘案した結果、秀逸作品十二句に付き被表彰者九名、佳作作品二十八句に付き被表彰者十五名、ジュニア賞二句に付き被表彰者二名となった。

予想外に沢山の応募に、関係者一同大いに感激し、選外となった句の中にも川柳の心を感じさせる作品が少なくないので、作者の方々はこれを機会に是非精進されることを期待したい。

(小委員会委員長 中村 光良)

選考委員(敬称 略)

・青井茂樹・飯田吾朗・今岡哲也・植田米男・小田武史・岸川津弥子・佐藤中勇
・坂田保夫・三箇 豊・杉田光弘・田中建一・中澤國男・中西和豊 ・中村光良
・牧野 博・三浦武久・宮川 誠・森安恒夫・山中正巳・渡辺 紘

小委員会委員(敬称 略)

・牧野 博 ・田中建一・中村光良・小田武史(事務局)・渡辺 紘(事務局)

秀逸作品（十二句）

勝碁だけ碁敵称える小者ぶり

青井 茂樹

盆近し孫を待ちつつ石みがく

鉾崎 宗夫

週四日囲碁に通えば妻笑顔

岡田 克司

ママとぼくケンカしながら囲碁を打つ

松浦 一

モノクロのアートを描く盤の上

松浦 一

女房には勝った碁のみを報告し

堀田 昭司

対局が口で始まるへボ仲間

中村 光良

長考に不思議顔することも棋士

中村 光良

あと一歩その「あと一歩」で五年過ぎ

三浦 榮一

楽しみは酒囲碁散歩の粗大ゴミ

中西 和豊

十五年弥栄（いやさか）を期す普及会

牧野 貞夫

あつ負けた盤のむこうに小さな手

國吉 秀明

佳作作品（二十八句）

祖父と囲碁いつかごかくにうちたいな

川原 拓真

5

認定会天敵又も同じ組

東 寛二郎

初戦負け今日も親睦囲碁大会

道休 俊和

ボランティア囲碁のお蔭で妻笑顔

武藤 守

ボケ防止囲碁を習いて友が増え

宮島 徹

囲碁ソフトクリームほどに甘くなく

牧野 貞夫

シチヨウ逃げ石に当らず石の墓

酒井 孝策

急所に一石鼓動高なり指震え

奥村 文夫

6

普及会妻は笑顔で送り出す

田中 建一

碁と酒とどちらが好きか孫が問う

田島 芳伸

子らが問う先生昇段いつになる？

坂田 保夫

夏の雲ごぼんのほこり横にみる

澤田 瑠子

教室に豆棋士集い蝉しぐれ

中村 啓

ボケ防止始めた囲碁が生きがいに

佐々木由幸

教え子に待ったは駄目よといさめられ

牧野 博

おじいちゃんそこは筋違いと孫が云う

大場 正幸

キリチガイ両方伸びて死に別れ

酒井 孝策

攻め合いに油断がならぬホメ殺し

中村 光良

碁敵に情けを掛ける勝ち戦

牧野 博

老いて囲碁病氣（やまい）忘れて子等と打つ

高橋 宏

勝ち見えて高くなります石音も

牧野 博

ボウシしてケイマに跳ばれ脱帽す

酒井 孝策

ペアー碁ではるか青春よみ返る

田中 建一

幼子の手つきはすでに名人級

牧野 博

囲碁勝負いつまにやら口合戦

宮島 徹

ペアー碁で連れが気になり脈上がる

田中 建一

囲碁教室生徒に教えて強くなり

三箇 豊

碁敵に夢の中では大勝し

堀田 昭司

ジュニア賞（二句）

つめごときなやみまくって答えあり

大内 颯夏

ともだちとうつしゅんかんをたのしみに

伊勢本正啓

投稿作品一覧

初段前越すに越せないこの一歩

阿部 邦英

大人の碁打てる筈だがもうジジー

青井 茂樹

大模様パラパラ破れ雨模様

我友の無言の誘い指を伏せ

あの一手がと白河めぐって朝が来る

被災地の崩れし石垣碁盤かな

秋山 正昭

幽霊だ死んだ大石よみ返る

碁がたきはいなくて困る妻の上

有本恵美子

勝つてると思っていたのに落し穴

丸タイル眺めて詰碁トイレに足止め

孫の手を打たれてくやし負けました

飯田 吾朗

勝負ありはつと顔みる打って返し

岡田 克司

定石・囲碁重ねれど棋力に変化の兆しなし

奥村 文夫

バス・電車ポケモンなみに教室課題

奥山 良平

初体験時計押しリズムで囲碁を打ち

加納伊津子

囲碁を打つもつとわかればなお楽し
詰碁やりまちがいだらけの勝手よみ

囲碁をうつ五年たつてもむずかしい

あたりだよミツキーさんだ孫が言い

河西 良文

囲碁会で悪手を打って悪あがき

片平銃三郎

定石を説明されて理解でき

三々に入つてさんざんやはり負け

蒲谷 和佐

にちようび囲碁きようしつたのしいな

川原 拓真

子供らと真剣勝負の定年後

五十嵐久嗣

爺婆（じじばば）が子供の強さに目シロクロ

愛ちゃんど打つてみたいなの囲碁ラリー

池田 茂
（卓球ツウ）

誉め上手聞き上手に負け上手

（あの手この手）

定石に自信あるのに半目差

（詰め甘）

今度こそ今度こそはと今日も一局

（優勝を夢に見て）

これも知りあれも知りでも負けた

（「それ」は知ら
なかった）

覚えた手昨日の雨でみな流れ

井上 省子

小学生今日も勝つたぞ年だけは

囲碁三味爪の成長すぐわかる

今岡 哲也

ポカ多発認知症とは無縁かな

左右逆感覚マヒして碁にならず

棋譜ならべ次の一手が見つからず

今岡 哲也

絶好調落し穴が待っている

岩崎 圭晴

勝ったなと思つたら負けよ勝負ごと

白と黒負け碁の自分赤ら顔

小田 武史

大会のためと負け碁のいい訳し

烏鷺（うろ） 囲みするめあぶつて夕涼み

今日もまた詰め碁詰め碁で酒すすみ

じんちとり碁ばんにむかいかんがえる

大内 颯夏

ヘン（辺） な人スミにたたずみ生きている

大内 憲枝

大投了みんなとられて目に涙

人だかりへボ碁囲んで岡目八目

生き死にに目を白黒させて一喜一憂

老人もボケるひまなし囲碁教室

大塚 光章

老人に負けてクヤしい囲碁勝負

石音やカラスとサギの一騎打ち

大場 正幸

女流棋士急所せめて本因坊

天井の碁盤見つめて夜が明けた

碁敵やまつてくれよと手談かな

万年劫亀の甲に花見劫まだまだある

本劫に二段劫

大場さん大場打たずに涙のむ

二段バネ得意な碁敵二段腹

白内障繋がる白石切れて見え

囲碁三昧これがホントの老後（碁）かな

岡田 克司

活きそうだ詰め甘すぎて死にそうだ
定石も一晩寝るともう忘れ

佐藤 友廣

片耳をおさえてみても通り抜け

川柳は囲碁宿題よりもむつかしい

定石を外すも勝てば気分良い

齋藤 明徳

サバキの手うまくさばかれ持ち込みに

妙手冴え大石取れたが碁は負けた

生き死にの黑白決めるコウ争い

酒井 孝策

生き死にの境を問わる欲と運

二つ目に早くなりたや囲碁落語

うろ覚え石頭絞れぬ二段かな

黒を持ち星目置いても宇宙流

囲碁をうつまいにちうてばつよくなる

川原 拓真

年齢差六十いくつの黒一手

神田 正夫

白黒をつけるの惜しい五輪の技(ぎ)

次はここねらった点に先こされ

北川 昌子

あと一問。ピー。ピー。せかす炊飯器

この一手継いで下さい先手取り

北原 文男

おもしろい石無くせといつも思うけど

お願いします白石持つ幼な児と挨拶し

國吉 秀明

長い夜に石を置く音聞こえてき

窪川 満

足りないね三・三打ち込め勝てそうだ

親鸞が人は灰迄人恋いし

好きだよと言ってしまつて五十年

平和の火いついつ迄も照らしたい
がんばれば初段獲得夢でない

窪川 満

リーダーの指導上手で生きがいを

老人は囲碁の仲間達と若がえる

小泉 進

気をつけるいつも後悔ダメつまり

ボケ防止シチヨウ良く手もつい忘れ

老いの囲碁パソコン相手時忘れ

小谷 和雄

好きじゃない碁よりお酒がいい感じ

言わせるな碁よりお酒がいい理由

小西 貞人

自信ある大模様がボロボロに

今日もまた最終盤にポ力が出て

小林 清

楽勝と思つた心がダメ詰まり

終盤戦鼻息荒し石の音

小林 時雄

白と黒頭も盤も白と黒

ビールのみまけたはんせいまたのんだ

込山 光雄

しろとくろあらそいよりはちようわかな

白と黒争うよりは譲り合い

碁石かな打つ手はどこか無限大

佐々木由幸

初心者にあたりと言つてくれないの

気付かない生き死に分けるこの一手

思いもよらず囲まれてやつと生きたらその

佐藤 七郎

碁は負けだ

我が弱み補強せずに敵を攻め

佐藤 中勇

白黒が解かるうちにはおさらばを

三分で解く問題に一週間

佐藤 友廣

教え魔は高段者でも嫌われる

田中 建一

碁のマナー大切に於て棋力増す

子供達早く数打ちもう初段

孫と囲碁裏がえしても同じ色

田中 均

上級者急に厳しくなる不安

田中 守男

頑張れよ無理をするなよひるむなよ

碁敵の石音確かゲタシチヨウ

田沼 秀明

ひきこもり晴れて外出囲碁教室

高尾 典生

天国にあればいいなあ囲碁教室

ボケ防止？ポカばかりでつもの不安

つぎわすれあつというまに大敗す

高橋 猛

碁に集いいごよろしくと明日もまた

高橋 宏

格下に勝つて天狗の昇段者

酒井 孝策

石切つたシチヨウにとられ待つたする

石を取り度に記帳す銀行員

ふた目できほつと茶を飲む初段かな

ハネられて死んでも保険出ず終い

四隅取り取つた勝つたと十二級

シチヨウかとアタリの石まで唾の跡

ノゾカしてツガず胸元かき合わせ

初段でもアタリアタリの空け者

敵急所思わず急所手で隠し

この一手パソコンGOに目も触れず

阪井 忠男

碁仇の会えば悲しみ来ずば泣き

どうだった夫聞けない妻のかお

澤田 瑠子

囲碁教室生徒に指摘され強くなり

三箇 豊

大悪手ペア碁で祈る大化けを

優勢が見えたとたんに負けルート

乱れ飛ぶ悪手・悪手いつもの碁

大優勢焼餅打ち込み大後悔

強くなるくすりはないかとサプリアニア云い

清水 昭

勝ってた碁下駄を履く時また負けた

宍戸 隆介

なぜ打たぬ折角憶えた定石を

優勢と確信した時時間切れ

囲碁ソフト何回やっても勝ちとれず

勝負手と打ったはずが敗着に

長考し打った一手が打って返し

宍戸 隆介

形勢が良いと思うと手がふるえ

須江 有道

イゴが趣味イゴよろしくと年金者

鈴木 勇作

冥土でもエンマ相手に三死局

ボケ防止はじめた囲碁だが進歩せず

関野 恵助

また負けた腕の未熟さ身にしみる

碁盤の目頭チカチカ目チカチカ

関本 優治

碁盤の目絆が見えたら勝機あり

碁敵が次々と逝く歳になる

田中 建一

生き死にと碁の厳しさを子に教え

廻り道したお蔭ですこの囲碁は

囲碁マナー守って棋力向上す

碁の観戦疲れますねと母は云う

牧野 博

死ぬまでに初段取りたや生前大意

増田 裕一

死ぬまでに私も欲しい生前段位

笛吹けど踊れぬ自分のむなしさよ

増渕 節子

へボ碁でもたのしく打てば名(迷)人戦

松浦 一

すて石と要(かなめ)の石をみきわめて

元気よくおねがいしますと星に打つ

三浦 榮一

山歩き往復電車で詰碁解く

また負けた次は見てろとまた挑む

負け込んでもいやにならない碁の不思議

負けようが勝とうがみんな囲碁仲間

いじめられ切られ眼がないナンマイダ

タツプして初段を目指すスマホ世代

谷淵 邦彦

リハビリのホームの囲碁で自利と利他

自利と利他一石二鳥の囲碁ボランティア

上達のサプリメントは無いものか

壇上 宗義

新しい手筋みつけて飯うまし

棋力より気力でまさり勝ち名乗り

道休 俊和

病みし身を奮い立たせる碁石(いし)の音

中西 和豊

我忘れ熱くなるなり碁仇に

豆棋士は未来の名人いざ勝負

中村 啓

今は亡き碁敵のくせまねてみる

中村 光良

ボケ防止効果疑う負け碁かな

囲碁大会真のねらいは懇親会？

罹るならお薦め囲碁の熱中症

中村 光良

時、待たず段取り遠くめいどかな

夏井 正勝

ベテランは得意のヨセ（ハネ）で座席取り

橋本 勝

へボ碁打ち長考しすぎて眠りけり

初心者の死に石一線逃げ回る

三々で先手生きられ惨々に

東 寛二郎

囲碁まつり負けた相手は孫の年

生きたはず大石欠目で涙目に

七路ばんパチリしようとい童（こども）たち

平野 源一

ダメ詰まりカケ眼分ならず六年に

まぐれだと云いつつ碁盤にほほゆるむ

堀田 昭司

敵には負けぬと深夜棋譜を見る

ゲーム囲碁レベル下げてもなお苦戦

本城 勲

手数読み攻めてるつもりが攻められて

間嶋 照子

一等地大きく荒らされ犬小屋に

追いすぎてあわてゝつなぐキズの跡

前野 昌彦

指導受け目は白黒でため息も

牧野 貞夫

ポカの数増えた分だけ負けが混み

アルファGO難敵むしろ十五級

九路の碁ポケGO探す苦労より

敵はただ碁敵だけの平和あり

井山殿長城破る日を期待

負け戦目無し策なし時もなし

牧野 博

迷人は知識と能がなかりけり

ヤキモチの苦さで知った負け戦
ヤキモチの旨み味わい以後伸びず

渡辺 紘

これで勝ち打ったとたんにダメ詰まり
ネット碁は定石本を側に置き
弱い石補強したのに殺された
あゝくやし取った積りが取られてる
日曜日は家族みんなで囲碁教室
教室後家族そろって囲碁番組
囲碁会の優しい師匠五郎丸
「ご」は「ご」でもやってみたいな
ポケモン「GO」
長考し打った勝負手敗着なり
今さらにくやんでも駄目あの一手
碁敵も一升瓶で夜が更ける
生きる死ぬ切って殺すは囲碁世界

三浦 榮一

三浦 武久

御厩 元宣

三好 優子
(佳織の母)

宮川 誠

宮島 徹

武藤 守

大石を捕えそこねて天仰ぐ

武藤 守

サルスベリ打たれ後悔さきたたず

この手こそ打った積りが最悪手

美女と打つミニのその奥気に掛かる

喜んで大石取って囲碁に負け

村田 憲司

攻めの壁逆に攻められ薄皮に

さあ殺せあわてて女房石かくす

森下 博

囲碁に勝ち虹を見上げた帰り道

古希過ぎて石をならべる友が増え

山崎 正幸

勝ち戦喜びすぎてポカ負けし

金曜日ご出勤ねと妻は言う

山中 正巳

囲碁普及決意新たに十五周年

考えて考え過ぎてフンづまり

山本 嘉博

次の一手バカだチョンだと云われても

毎日がフル回転でぼけ防止

横山 一男

年老いて負けず嫌いで囲碁覚え

心地よく模様張れたとほくそ笑む

白黒の感触楽し夏の朝

黒の石いつになつたら白の石

目を落とす場所が一点負けつつく

囲碁教室憶えることが盛沢山

寄木 享

囲碁教室ウシロにいても指されます

認定会同じ相手に二連敗

白と黒愛犬の名もシロとクロ

あとがき

上手な句を見れば感心する

素直な句に触れると人柄がしのばれる

皆さん立派に、囲碁人生を五七五の中に詠みこんでいただきました。投稿作品の二百八十三句の中から、選者二十名で百九十句もいずれ甲乙つけがたしと選び出しました。どの句も、これを最後に忘れ去ることはできません。

今回、十五周年記念第一号として、全員の労作を掲載し、作者名入りで三百冊の句集を発行することにいたしました。今後、第二号第三号と続くことを期待いたします。

今回、この囲碁川柳にご苦勞いただいた方々に感謝申し上げます。

平成二十九年三月

田中 建一